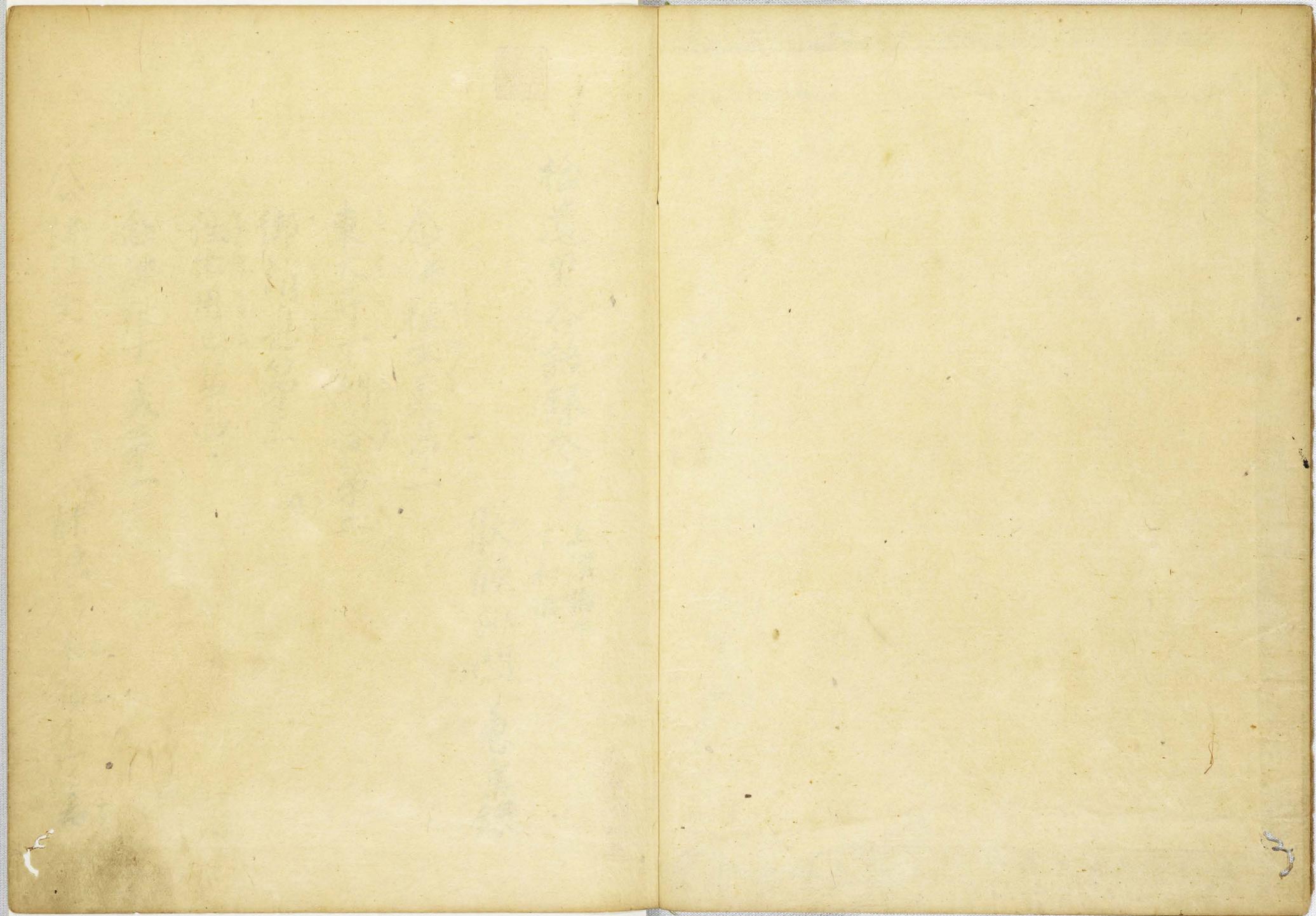


語燈錄

卷七終







拾遺黑谷諸録卷下

上漢語中
下和語

狀欣沙門之惠集録



念佛往生義第一

東大寺十門卷第二

御消息第三 四通

往生用心第四

念佛往生義第一

念佛往生と申すハ弥陀乃本願ノ旨也

とけまはり衆障を滅せんたらふ念佛
正の川ともしも衆障をけまはる念佛す
往生すらすとくすくすくすくすくすくす
やまのけまはるすりゆりゆりゆりゆり
やまのけまはるけまはるけまはるけまはる
すまはるやまのけまはるすまはるすまはる
すまはるやまのけまはるすまはるすまはる
念すりに往生すくすけり善導のすまはる

念すりよすれり多初のけまはるすまはる
すまはるやまの衆障をけまはる念佛す
と往生すくすくすくすくすくすくす
善根をけまはる念佛をけして元上の
功德をまんすす餘の善根をけまはる念佛
佛すすすすすすすすすすすすすすす
善導のけまはる善根薄少なりとけ
して本願の念佛すすすすすすす

さけさるるすきうー^レ詮^レたりさる元
道心^{タマシ}ありすさる也^{タマシ}んはとて世間^{セカ}と
すてけふものゆ^レ世間^{セカ}よりりて念望^{ネンボウ}
と^レい^レた^レる^レもの^レい^レと^レあ^レく^レ心の^レら^レ
川の^レさ^レる^レか^レけ^レか^レ人^レ分^レと^レい^レお^レ
わ^レく^レ佛法^{ブツポフ}は^レあり^レ元常^{ゲンジョウ}念^{ネン}とい^レる^レ老女^{ラウニョ}
よ^レりて^レ不^レ差^レあり^レや^レま^レい^レと^レらん^レ事^レと^レ
ー^レら^レす^レ生死^{シヨウジ}の^レり^レけ^レく^レ事^レき^レん^レあ^レる^レん

三心^{サンシン}具^クすと^レそ^レと^レあ^レら^レの^レさ^レり^レな
そ^レす^レ三心^{サンシン}とい^レて^レ至^レ誠^{シツ}心^{シン}とい^レ深^レ心^{シン}とい^レ
廻^エ向^{コウ}發^{ハツ}願^{ガン}心^{シン}なり^レ至^レ誠^{シツ}心^{シン}とい^レ眞^レ實^{ジツ}の^レ心^{シン}
なり^レ性^{ジヤウ}生^{シヤウ}証^{シヤウ}証^{シヤウ}い^レ念^{ネン}佛^{ブツ}証^{シヤウ}候^{コウ}せん^レ心の^レ
う^レこ^レり^レあり^レい^レを^レら^レて^レ行^{コウ}す^レと^レ至^レ誠^{シツ}心^{シン}とい^レ
心^{シン}よ^レり^レと^レり^レ事^レと^レ外^ケ相^{ソウ}あり^レと^レあ^レる^レ事^レと^レ
崖^ケ船^{フナ}不^レ實^{ジツ}とい^レ也^レ心の^レら^レよ^レと^レあ^レる^レ心^{シン}

胡フなり小コなりシらラ給シ下カらシるルはハそノ
一向コウ專セン念ネンとシてモ事コトわりリ一ニすル小コ施シ陀タと
そのノ念ネン佛ブツ以テ修シてモ餘リのコト事コトはハしラず
そノのハ心シンのハ壽命シユウミのハ長チヤウ短タンとシてモ果クワ報ホウのハ深シ深シ
とシてモ宿シユク業ゴウとシてモ事コトとシてモ事コトとシてモ
とシてモ佛ブツ神シンとシてモのハんンとシてモ事コトとシてモ施シ
陀タとシてモのハ心シンなラばモ不フ定テイ業ゴウのハ施シ
陀タとシてモ轉テンとシてモ施シ陀タとシてモ業ゴウをモ来ライ迎エイとシてモ

一ニ元ゲン益イキのハこレをシてモんンとシてモ事コトとシてモ後コト
女メのハ心シンとシてモ事コトとシてモ小コ本ホン意イとシてモ後コト生シヤウ
力リキをモりテ小コ念ネン佛ブツをモ正テイ定テイのハ業ゴウとシてモ事コトとシてモ
とシてモ餘リのハ行コウとシてモ事コトとシてモ事コトとシてモ
とシてモ一向コウ專セン念ネンなラばモ心シンとシてモ事コトとシてモ念ネン
とシてモ生シヤウすル小コ不フ定テイとシてモ事コトとシてモ業ゴウ
とシてモ事コトとシてモ行コウとシてモ事コトとシてモ無ム常ジョウとシてモ行コウ
念ネン佛ブツとシてモ事コトとシてモ佛ブツ教コウのハ行コウとシてモ

相遠する也。そとて父母の慈悲あり。此子
とてわが子。ゆゑに先づも。此子と
らへんわが子。なげく事あり。佛
一切衆生は。わが子とて。先づも。わが
とて。わが子。善人となす。わが
の悪人となす。わが子。わが子。わが子。
此種をまゐる。わが子。わが子。善人とな
て。わが子。念佛を。修す。わが子。眞實

一、佛教に。わが子。わが子。わが子。わが子。
わが子。念佛して。往生し。わが子。わが子。
お接し。わが子。わが子。わが子。わが子。
わが子。わが子。わが子。わが子。わが子。

南無阿弥陀佛。南無阿弥陀佛。

東大寺問答 第二 後乘序門

一問 釋迦一代の聖教を。浄土宗にお
かへ。又三部經より。わが子。

答八宗九宗ふつ川を述べてつる宗の中二
代は先て聖道浄土の二門といつる也
聖道門は大小あり推實あり浄土門は十
方あり西方あり西方は雜行あり正行あり
正行は助行あり正定業ありかくして聖道
はわづら浄土はやとて釋しん也宗を
そのついでに色をぬきの部經よ
かゝるさへふあり

二問正雜二行とり小本願とんひ
答念佛の本願也十方三世の佛菩薩す
てられらるるをせむとんしてんとしてみ知めて
思惟し六道の者よゆつりあしをそり小
てすくもんとて度し後今本願の者号也
ゆめく雜行本願とんおの佛の智とん
そつひて邊地よとてまう也見佛聞法の
利益よとてくしとて也とんぬ惑の

乃れ道心もなるといふ寺法師をんさるは有り
らまんとて佛意をばり有りとするは
ふ事なり

三問三心具足乃念佛者ハ定意往生歟
答定意往生する也三心ハ智具の三心なり行
具ハ三心有り智具ハ三心と云ハ諸宗修學
ハ人本業の智とて信をとりたる也經
論ハ明文ハ出ハ解釋ハ行じハ後志

て念佛の信はさういふんとてこれ終焉也
行具ハ三心と云ハ一向歸するハ至誠心也
疑心ハ此ハ深心也往生せんといふハ廻向心
明ハ此ハ一向念佛してさういふなりハ
往生せんといふハ行具ハ三心也此ハ念終
も一向ハ信するなりハ自然ハ具するなり
四問念佛ハ何れハ念珠ハ何れハ念
ハ念ふなりハ念ふなり

答つからず会珠をとりて世間の事
をいひ珠をまきそくを拍子にいそくふ
也会珠をそく捨てて言と手とていふ
す也そくを元明を断せけんこの事
にそくを世間の事と主との事と
は手小なる時事念の事とそくを
す会佛の事とそくを会佛の事と
す急いそくは会佛の事と主事念の事とそく
は手小なる時事念の事とそくを

いそく心乃事念をゆるるる過分の見也
うまわまそくを後乃雑言とて会珠
とそくをそくとす事ゆいそく
か事なり

又問ふ大佛の事いそくをていふこの
大佛の事いそくを浄土とていふ
を浄土とていふ
答ふ事浄土の事と三寶とす

一三あり一三辨三寶と云法身の理の
うと一三寶の者として別也百法は法身
に出生するのゆ也二一別相三寶と云
十方の諸佛の佛寶也一の智恵なり能説
の經教の法寶也三衆の弟子の僧寶也
佛に之を辨る三寶の次第をみる
一のゆに畫像木像に任持の佛寶也
二のゆに經卷の法寶也畫僧木僧の三衆と

像寶也任持と別相と云分列せ
一けんけん一木尊の婆娑と云
行者の西方よりん事なるの事也
一淨土の佛のゆ一りよりの事
律より真佛の思と云一切徳を
六閻有智の人よりれん元智
乃人の道心ありと云ん
此のゆ也

答小智の之は道心なくん元智の人
道心わんん千重百重のぼり也わん
心元智の人れ念佛の本願をしん
下小智の之は道心なくんわん
淨說法わんん虚説人師しわり
撥しわんん元智の人れ道心
事とゆ事とわんんわんんわん
わんんわんんわんんわんん

わんんの道心なくん道とわんん
く人也盲目の人を明眼の人とせん
わんんわんん道心わんん
智の之は元智の人れ念佛の本願
も也元智の人れ道心わんん
七問念佛の人れわんん
わんんわんん

答一わんん

華嚴禪門真言止觀入んとの至極甚深
 の法門よりほふりあまの衆生も
 さらり懈怠のたれたれか疑惑のたれ度
 中をきてのら中ゆすとも生じたゆり
 いして位して數遍を退轉せん中さらり
 行つて十念の上盡一形一對と向時
 の事也たよく念佛のあひそらん念の
 らゆまりて百念もたよくぬ十念中

念うし行よぬ一會也この深空うらんと
 やみすそそ麻のゆりと穢一そふ
 こそあつたあつたわんがらり麻の穢
 一そふそそ穢中も過云元始より
 このそそ業とりそ成せゆるととと
 一しりりあんなるそそ業成
 衆滅了るるそそ衆滅了るる
 元生はる元生とらた金色のそそ

又善ニのハ心ニくシ信ニ行ニはリ一ニのハ心ニのハ小ニに
とシてハあハるハ徳ニをシてハあハるハ人ニをシて
かくハらハてハ留ニすハ一ニくシ浄ニ土ニのハ一ニ門ニより
て念佛ノのハ一ニ行ニをシてハあハるハ人ニをシて
かくハらハてハ留ニすハ一ニくシ浄ニ土ニのハ一ニ門ニより
るハ人ニをシてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて
今ハ一ニくシ浄ニ土ニのハ一ニ門ニより
わりハてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて

あハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて
あハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて
いハらハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて
いハらハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて
浄ニ土ニのハ一ニ門ニより
いハらハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて
便ニにハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシてハあハるハ人ニをシて
浄ニ土ニのハ一ニ門ニより

夫しんきんとらひにんたりて
其當時の心をもよくしむ事か
ひいふもあはれうんしんしん
あつらひし事ありふたしん
義をひりてれいしめあふあ
しく御沙汰いひてゆす急とあふ
らり往生とそありしはゆるし
りく先をたかりぬとくしん
論しあむ

人あつらひし事少くもあふ
らく案してあらん事ありし
事海の大業何事かあふし
世の者開利
養ひ中しくとらひし海く
やそ皆今日もあふしん
事あつらひし事ありし
中事ありし事ありし
川月てはありし事ありし

ハ聖道^ニ浄土^ト乃二門^ト以^テ心^ヲ以^テ死^ニて^ハ浄土^トの
一門^ト以^テ心^ヲ以^テ死^ニて^ハ浄土^トの
二門^ト以^テ心^ヲ以^テ死^ニて^ハ浄土^トの
浄土^ト一^ニ往生^スせん^トなり^トん^ト人^ハ安心^ニ起^ル行^ハ
こ^ノ中^ニて^ハ心^ヲ行^ハとの^ニ相應^スん^ト也^トう^ノ心^ヲ
よ^ク觀^ル元量^ノ壽^ノ經^ヲ釋^スて^ハい^ふく^ニ衆^生
生^カり^てか^のく^くじ^まん^ト縁^ハん^トの^ハ

三種^ノ心^ハなり^トして^ハ浄土^トの^ハ往生^スす^ト
か^のく^くじ^まん^トす^ト一^ニに^ハ至^ス誠^心一^ニに^ハ至^ス眞^心
三^ニ一^ニハ^ハ廻^ル向^ス發^ス願^ス心^也三^ニ一^ニハ^ハ具^スセ^ル也^トれ^ハか^の
か^のく^くじ^まん^トす^ト一^ニに^ハ至^ス善^導智^ハ三^ニ心^ト
を^釋す^トい^ふく^ニ一^ニに^ハ至^ス誠^心一^ニに^ハ至^ス眞^心
也^ト誠^心と^シて^ハ實^也一切^ノ衆^生ノ^ハ身^ハ意^業一^ニ
終^スん^トす^トろ^の解^行ノ^ハ眞^實心^ハ
中^ニに^ハか^のく^くじ^まん^トす^ト一^ニに^ハ至^ス眞^心一^ニに^ハ至^ス眞^心

ハ賢善精進のの相を現して是れは虚無
すまのしの外明闇はえくすふらす
眞實はら井よふうゆし至誠心とあり
くそりあり釋の心至誠心と眞實の
心也れ眞實とよふあり母まじりて
心しけしん事ら此海事の心を具す
也れあらうらむ此一して此は
んが此とよふらんういせはむいそ

海事あらむたむくつとありて人
の中しうらく用意すん心と光也
しと人もよありか此ゆりの世は執す
る心のふくありありおそくはく
あそ名聞利養はくふありてそ
そりばわりのくつとありて事あり
やそりまを返りて又名聞にありて
は乃せぬしん力をけのうせうんか

してありわさ世間^よの人の心の中
けりす貴^{たか}りいづか^らはあれしうと
本意^{ほんい}のしきんをうんりしてまよこの
うと^まは^まのさ^さもれ^まそ^そう^うなる^{なる}す^すん
ゆ^ゆを^をの^のぬ^ぬま^まも^もん^んの^のま^まん^んの^の
は^はい^いの^のこ^こし^して^て本^{ほん}尊^{そん}道^{どう}場^{ばう}の^の庄^{じやう}嚴^{えん}や^やゆ
か^かま^まら^ら小^{せう}木^{ぼく}立^たか^かん^んと^とれ^れは^はは^はく^くも^もわ
ま^まな^ならん^んと^とわ^わは^は人^{じん}今^{いま}も^もま^まん^ん事^じ

はの^の執^{しつ}下^げの^の程^{ほど}は^はの^の事^じと^と人^{じん}の^の志^し
ま^まな^ならん^ん申^{まを}わ^わし^しと^とい^いな^なし^しん^んら^らは^は
し^しの^のい^いふ^ふ事^じも^もな^なま^まう^うなる^{なる}ら^られ
り^りて^て佛^{ぶつ}の^のら^らい^いを^をま^まの^の性^{じやう}生^{せい}は^は縁^{えん}ふ
ん^んの^のん^んと^とま^ま事^じの^のい^いは^はす^す所^{ところ}は^は法^{ほふ}語^ごと
ま^まな^な事^じの^のや^やそ^そ至^し誠^{じやう}心^{しん}け^けて^て性^{じやう}生^{せい}と^とま^まな
心^{しん}を^をま^ま又^{また}か^かく^くし^して^て二^に川^{がわ}一^{いつ}の^のを^を
人^{じん}自^じ然^{ぜん}の^のふ^ふし^しあり^りま^まん^んを^を人^{じん}の^のう^うま^まり

はりえぬ。然し少くはひす。
一、時々のうみそ、談壇のうら小
世間の人目、然りみち申はひと、しを
の、いして、性生ヨシキのさけり、しを、さ
は、りみぬ、後、い、さ、る、ん、事、れ
也、く、も、ち、ら、う、ふ、ら、り、行、く、ん、は、力、し、何
を、り、て、も、仰、ん、と、せ、よ、う、せ、い、ん、き、ら、ふ
ゆ、い、せ、ま、の、や、い、く、を、四、句、の、不、回、り、ま、し

一、外相ケチ責ツトけ、て、内ウチの、貴キう、ぬ、人、わ、り。
二、外相ケチも、内ウチも、さ、も、い、貴キう、ぬ、人、わ、り。
三、外相ケチ責ツトけ、て、内ウチの、貴キう、ぬ、人、わ、り。
四、外相ケチも、内ウチも、さ、も、い、貴キう、ぬ、人、わ、り。
中ナカの、内ウチの、二人、の、ま、ま、さ、ら、う、さ、ら、う、の、至、誠シジツ
い、け、さ、ら、人、也、ま、ま、と、虚、假ケの、人、と、を、い、く、下
の、ら、れ、二、人、の、至、誠シジツの、具、し、さ、ら、人、也、ま、ま、を、真マコト
實マコトの、行、者ユクシヤと、な、り、く、一、下、の、内ウチの、行、者ユクシヤと、こ、こ

海なる心の心海軍の心はたうて外
相ササなるく之れはけりくもわきまをともく
てともありく少やとありの也あゆまふあせ
とともんずと極樂ゴクラクは縁うんずも人
目なりはけりもそほこれ心をすくす
少の也あれは至誠シジツ心とゆひ也
二に深心シコとよの善導ゼンドウ釋シヤク一縁ひてい
ふれ二種ニシュあり一ふの決定ケツギしてはる方わ

これ煩悩マンノウを具ツクせも衆愚シュウゴ生死シジの元モト又之善導ゼンドウ
よくとくをくして曠劫クワウキヤクなりこのこと川縁カハヅリ
三番サンパン一流轉ルンして出離シュツリの縁ヰなりと信シンす
一三にふか阿弥陀佛アミトブツ四十八願シジュウハチカネはりく
衆生シュウジヤウは攝取セツク一縁ヰすれり名号ナゴウは稱ショウ
すり事下十聲シウシヤウ一聲シヤウもくもくす乃願ノカネ
か小新コシンしてはるくそワラシヤウ往生シヤウジヤウする事と
信シンして乃至オチシ一念ニツもくもくふんフンをさゆ

深心シコと云ふは又深信シコと云ふは又深定カクマツと云ふは
たゞ佛敎ブツと云ふは又佛行ブツとして正行マサヤウとして正行マサヤウ
くまひをのりて一切イッパツの別解ベツゲ行ヤウ異イ
學異見異執ガクイヘイセツのきり小退動セウドウ傾動ケイドウせしむ
る之コノと云ふは乃釋シヤウの心シンはなりなりなり
乃信ニシを信ニシ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
と云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシ
乃信ニシは乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ

われ信ニシ心シンは乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
なりなり一のりたるは乃信ニシは乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシ
たゞ一ヒト本願ホンガン乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
心シン貪欲オンヨク願志ガンシ乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
十ジュウ惡破アクハ戒等ケイトウ乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
わが心シンは乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ
乃信ニシと云ふ一のりたるは乃信ニシは乃信ニシ

人におわす一妄念しおこす衆もいへく
守先て守人先くわぶらん日くこと
このまゝつゝ今十念してはらひし
ころおひよりいふ善導和尙未来
の衆生のこれいふをのまらん申すを
いふ二種の信心をわけていふこと
煩悩を断ち衆生をいふは凡そ
日ごとく誦念乃木願以信して念佛

もしお勢いふおまて史宜して往生し
うし衆を釋し給りて乃釋のいふ心
うそいふしつらひも也ほるしつら
し釋し給いしつらひもはらひつら
お不定小うおひよりいふわうくお
は違ひし乃義をそ給いけぬらんわ
心のうらましの往生をいふらんといふ
ゆゑいふしつらひもいふのやそ往生

てあんなりてふもらゝのそそくふれよ
けりまをそありんす衆サウのふま形とて
をサ沙タほすも心コ往生リキウせんともいひ
口コに南無阿弥佛ニとさるクの聲コエにコい
安ア定テイ往生リキウのチ心シンをタまシてシらレぬチ安ア
心シンよりてすれり往生リキウの業ゴウはシゆヒ
ち也チ心シンをシらズくクいヒとナりテ不フ定テイ
巧クのチやク不フ定テイ也チ定テイとナりテ一イツ定テイとナる

事コトをシらズくクいヒとナりテ信シンすル
心シンよりテ南無阿弥佛ニとセらレるル佛ブツ
ありニてシらズくクいヒとナりテ一イツ
定テイとナりテ終シュウすルもト其ソノ心シンをシ
心のすくシてシらズくクいヒとナりテ又マタ別ベツ
解ケ別ベツ行コウとナらレるル事コトはシらズくク
にイ行コウとナらんル人ニンのハ心シンをシらズくク
とナるル事コトはシらズくクいヒとナりテ又マタ

此中のいせは、はるりのことなる人と申す也
法相寺の八葉の學生也。行のなるを
申す。真言止觀の一切の行者也。出
けいざい。聖道門の解行也。淨土門の解
行也。わうのゆい。別解別行と云ふも
也。わいりの人。と云ふも。海
は。申す。は。善導。海。不。釋。一。海。て
此のうの文。い。わ。く。して。以。ゆ。ゆ。は。く。ふ

わ。く。ふ。を。さ。り。て。申。す。と。い。佛。と
そ。り。て。い。り。は。い。れ。り。と。い。て
煩悩罪惡の元々の念佛して。定。性。生
す。と。申。す。い。つ。事。を。信。す。と。申。す。の。後
と。申。す。と。い。り。て。一。念。と。い。ふ。と。い。は。る。は
る。の。ゆ。い。切。の。佛。と。い。は。る。の
に。衆。生。は。い。ま。い。と。い。は。る。也。す。は。る。の
河。詠。陀。來。願。を。た。り。て。い。は。る。の。い

佛一なりをん一十方の衆生をんじ
まらんこ誂ういて名号をんめりて下十
聲一多一いらん一何能カ一業一して
り一じしんん正覺ばう一とらひ
給てうの成就してすそ小佛一なり
後り志るば釋迦りけこのせ果り一い
て衆生のきふかり佛の本願をん後
又一方一たのく恒河沙数の諸佛由

てきてんい言をのて三千世果小なる
ゆて元履安の相を現して釋迦佛の誂
施の本教をかりて一切衆生をすりてか
り佛の名号をん受まはけりて往生す
とんば後うば受定してくくいりて事也
一切衆生をんめりて信す一と證成三
後りくのく一切の諸佛一佛之のこ
ら同んり一切ん受念佛して受定して

往生リキすこじ縁をあふい願ををてあふ
いらの教をとこわふいらの説を謹を
すら終を思いらる佛の又こりて
往生ヲすすけの終をとこりて
のいらる佛をりての終を
たらすす佛が
りいんや聲聞縁覺をやいらい
んやえまをやとこりてい

あら佛生の法門をいら信を
をらいんのらいら人とあら
ならいん心をとこりてい

あれを深心とす也

三に廻向發願心と善導釋といえ
く過去及今生の身口意業に終すらるの
世出せる善根に他の一切の凡聖の身
口意業に終せんとこりて世出せの善根と

随喜してこそ自他所修の善根をりて
あしくそんれ眞實深信の心れ中い廻向三
てれそあじすゆんそ縁ふ也又廻向發願
心よふれ身決定眞實の心の中廻
向してじすゆん事縁るゆいをなせこ
ろんふく信してすゆん金剛のこく
して一切の異見異學別解別行の人のそ
先勤乱破壊せられしゆりこの擇の

心よゆりゆり身よゆり心よゆり心よゆり
この世よ身よゆり心よゆり心よゆり
功德よゆり心よゆり極樂よ廻向して往生
と縁ふ也ゆり心よゆり身よ功德のそゆり
すこ人のゆり心よゆん功德よ佛菩薩
ゆりゆり世縁のゆり心よ功德よ隨喜す
れゆり心よ功德よゆりゆりてあしくそ
極樂よ廻向して往生と縁ふ也すすてゆり

月の事光も人の事光もこの世の果報
をいかりおれくのらりせれ事
極樂をうぬ餘の淨土いじまらん
なり那摩いじまらんさういんか夫
よいじまらんもきといわくのう
そそらんもこと事い廻向する事
なくして一向極樂い往生せんとい廻向す
る事也なりこの事なりなりといはれり

らんといことこの世の事といはれりわぬ
かえとい廻向いせん切徳をいしり
ぬして往生の業いせんとい廻向すこと
一切の善根をいし極樂い廻向すこと
せはして念佛い歸して一向い念佛せん
人ありといし餘の切徳をいしりわぬ
廻向せよといはれりすことなりわぬ
川をいしせん切徳をいしり又このら

をりうにれけり三便直三一三きうて念
佛の何れ善三法三修三す三事三のわん三志三
う三なる三生三の業三廻三向三す三こと三す
事三そ三心三金剛三の三心三け三也三解三
解三行三や三す三れ三け三ま三と三け三け三け三
心三け三板三と三け三の三人三行三一三れ
て三お三ま三れ三廻三向三す三事三が三れ三と三心三
也三金剛三お三や三め三れ三お三ま三の三心三け三た三と三

さりて心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三
と三け三れ三と三心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三
願三心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三
心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三
生三の三心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三
す三と三善三道三の三釋三一三法三の三心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三
も三ん三人三の三心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三
心三の三や三め三れ三ぬ三事三也三金剛三

て奥せんとしりし一里ひまんばくこ
うふいぬくれば心乃れ上程わすはに
こらふあまのこしけりくくははくち
いぬ文の中しあひあわくおしり一巻を
事ひまんをたの川し見泰にりひん
時りあくくひられう性生すく心ん
力沙ほしていれを安んといふるをいせ
けろくくくくく浄土門に入ん御消息
（浄土門に入る御消息）

わがきりくくくくくくくくくくく

わがきりくくくくくく御消息

念佛往生いふもしてさり出

難せんもすきとも往生すき道理ハ

あわくくくくも善根すくくくくく

す統念十念とす事一衆持行

くくくくくくくく十思入道し性生を

く人をうんといんすれ常後流

轉マシ乃ニ元ヒ史ヲをシ海ヲ一ニ之ヲ川ヲ為シとシり時く
きしはといふんとすれば未法百年のまはら
法滅之後さらりおろう一一山の法はいふ
こらんとすればともとすれば事ならず
あらばよういふ事一一總人をし時時と
えらば攝取一終ふ佛をりしゆうた
のそうの力は一一日といふといふとあらはない
大願業力によりて善惡乃元史性生終と

法をすして本願をとしてふりして性
生にいはれしるはりしるとすべし
一一乃未代の衆生は今生の心の
心をりして後生の生を念佛の
からならずして源空の心をりして
すまらずにてあらす聖教の心をりして
心をりしてあらす心をりしてあらす心をりして
熊若乃入道一いはれしるはりしるとすべし

仰又らうていそを起りぬゆゑに
 うづらうていそを起りぬゆゑに
 かせしていそを起りぬゆゑに
 らせしていそを起りぬゆゑに
 本願の行して持戒誦經誦咒理觀等
 行の佛の本願わぬ
 此の極樂を稱えん人の
 願の念佛の行を

此の極樂を稱えん人
 の念佛を
 由の念佛を
 て極樂を稱えん人
 の善導和尚の
 せしては
 いては
 善導和尚の
 念佛の
 業を

てなりしより一のかりきりなる一定り
てふと申すは又女犯と云ふ不淫戒の
事いふはあらずし又即ちさうさうとせ
んをうと云ふ不願戒の事といふは
りまの持戒の行の佛の本願とわね行
をいふはさんいしといひてなりとせ
はるるけうやうの行も佛の本願
すはるんにしといひていふとせ

なりしより一のかりきりなる一定り
色行ふしといふは又さうさうの事と佛
の本願といふはぬれは先いふとせ
かくてしはせん又却てさうの事とせ
たいせらるるなりしより一のかりきり
申すはさう念佛の事三百と云ふ
一六万と云ふはさう念佛の事
り改定性生の事といふとせ

と善根の念佛のいよめわりの事に
六万遍をさすを始りてくれけり
いふ事候うにせき務たりしす
海客やふん一三万五万念佛候
わを始りてせし戒行やふれせ
ししひらと性生いりまにかり
ししししししししししししし
やの行の佛の本願の行していよめ
りしししししししししししし

と八十九をたりしししししし
ひらしてししししししししし
せし始りししししししししし
うししししししししししし

御自筆也

五月二日

源宣

ある時り許遊事

たよりしししししししししし
可免てくく性生候始りししし

海すうーいふわいていふまじくはげす
ふくすもを給ふくいれふ一ふか
し守りうすひが然くそそく作
はかうーこく

宣月三日 源宣

熊谷入道殿

ワシーいもあは熊谷入道念佛志
てやうくの現瑞で感しそりそり

上人へわけそりそり時乃御ぬそり

往生浄土用心 第四

一毎日御所作六万遍りそくいこうい
あはるそいもぬい十念一念も往生は
しあそりし月くちのい上おしし
釋し上品花基見意主到者皆因念佛
多とくし

一宿善しりりて往生すー一人のゆい

らんいの事とて公をひかりありのこの
その果報するべきに力をせし衆切徳よ
つそふくともわらわしむる事して
ふばりて性生経の大受るん宿
善いより一と聖教しよやらん
念佛往生は宿善のたふふよりいよわ
らん父母はる一佛身よりあや
らゆの衆人も係結し十念して性

すと観經しんんてい一明に宿善あ
い善人のたしんぬる思し佛
しんすじ事そひつ逆行んよ
えいふもいんち一ま中りそい
六道の衆人念佛十念して性生経さけい
つし宿善のたふくしんりい
まそ経し若人造多衆得聞六字名火車
自然去花基即来逆極重悪人无他亦便

唯レ稱レ念レ佛レ得レ生レ極レ樂レ若レ有レ重レ業レ障レ元レ生レ淨レ土レ固レ
乘レ旃レ陀レ願レ心レ生レ安レ樂レ國レ此レ乃レ文レのレ心レとレ又レ蓮レ

以レ川レらレりレとレ旃レ陀レのレ六レ字レのレ名レ號レとレ乃レ

火レのレ車レ自レ然レにレ行レりレてレ蓮レ臺レよレにレ行レりレとレ

じレふレ一レ一レ又レとレらレてレおレりレとレ眾レ人レのレ他レのレ

方レ便レなレらレんレとレ旃レ陀レ以レてレのレ心レをレ創レ造レとレ

極レ樂レにレじレふレ一レ一レ又レとレ一レ行レりレとレ乃レのレ心レをレ創レ造レとレ

更レにレ淨レ土レにレじレふレ一レ一レ又レとレ一レ行レりレとレ乃レのレ心レをレ創レ造レとレ

願レ力レのレ月レのレ女レ樂レ心レにレじレふレ一レ一レ又レとレ一レ行レりレとレ乃レのレ心レをレ創レ造レとレ

いたレのレりレとレ又レ善レ導レのレ釋レのレ曠レ劫レとレ

こレのレ六レ道レにレ輪レ迴レしレてレ出レ離レのレ縁レとレ

らレんレ常レ没レのレ衆レ生レをレじレふレ一レ一レ又レとレ一レ行レりレとレ乃レのレ心レをレ創レ造レとレ

隨レ以レてレ佛レにレ行レりレとレ乃レのレ心レをレ創レ造レとレ

乃レ衆レ生レとレ乃レのレ心レをレ創レ造レとレ

物レのレ身レをレ創レ造レとレ

アレとレ乃レのレ心レをレ創レ造レとレ

悪世の元丈はたふられて元丈と
乃文字は托辭の^{トクジ}一^{ヒト}弘法大師釋
經有りけり元丈の心はむいさけり
そらうあ^アて善思^{ゼンシ}の心を
くろく事なり一時煩悩百を
以て善思をやすめられし
なりとらう^トて行^{ユク}りて忘^{ワスレ}つ
らふ^シた^シれ^シ佛道^{ブツドウ}の喜^キ提^{テイ}心

をたうて煩悩を^シく三祇百
劫難行^{ニク}を行^{ユク}して^シ佛^{ブツ}の^ニ行^{ユク}り
て^シ元^{ゲン}濁^{ダク}の^ニ元^{ゲン}丈^{チヤウ}と^シら^シる^ニは^シ願^{ガン}行^{ギョウ}
う^シれ^シら^シる^ニ申^{マウ}す^ニて^シ六道^{リクドウ}生^{ナマ}り
ち^シら^シり^ニは^シ也^{ナリ}跡^{アト}隨^{ズイ}如^ニ來^キ出^デ乃^ニ事^{コト}以^{ヨリ}所^{トコロ}見^ミ
あ^シへ^テ法^{ホウ}藏^{ザウ}善^{ゼン}薩^{サツ}と^シり^シて^シ家^ケ尊^{ソン}
行^{ギョウ}の^ニ僧^{ソウ}祇^キの^ニ苦^ク行^{ギョウ}を^シ地^チ載^{サイ}永^{エイ}劫^{キョク}
の^ニあ^シり^ニて^シ功^{コウ}を^シい^ヒ徳^{トク}を^シり^シて^シ所^{トコロ}跡^{アト}隨^{ズイ}

けしけ小なり法なり二佛しり妙法なり
智三身十力元畏奇の一切の口證の功德相
好光明說法利生等力外用の功德さゆる
なり法三字の名字のなり小なりつれて
その名号を十聲一響もくととるんれ
とれなりじらんりし之とるんれ佛
いありしとらんれ法なりは乃佛なり現
小せ小なりして佛になり法なり若

号びるん衆生といふはすも吾等
しひかたしてひせあり法なり信
て念佛にうすして性生といふも
人を他カ信しうるともひ也世間の事
にもし他カひうりてわいなりしなり
ものごをさみり法なりとんと
小なりしとわ船車にのりてやとくゆく
事なりしとわす葉柳のらら

らみし他力也わさしーと恩をなす
の詠曲乃んしてうま川なりきまあり
わさしうか他力ありしして天劫のあり
たかりしーしうか先さう本願他力のゆ
ぬいさうー糸をくせ死の海にまさん
うさしおれし守つうま志うあえさ
すやまいをやす草木らうろ糸は
うる徳石不思議の用カ也又麝香のやい

ーま用ありさいの角はう川をせぬら
ありあれぬんお紀草木らういをわこ
まぬあまゆれしとととより不思議の用
かひわのしうしうして佛法不思議の
用カしーはうらんやうれい念佛の二聲と
八十億劫のつぎ減する用あり 鉢陀と
悪業深重の地獄来速ーゆふらうり
ますとらりしーざりて宿善ありぬ

一也。沙汰せし。川のそとわらわらと
 ありとす。名号とぬふ。この。往生
 す。う。と。信。一。ふ。り。と。す。く。ふ。す。て
 破戒し。持戒し。貧窮し。福人。上下の念
 ころ。号。号。名。号。と。る。念。せ。い。り。と。す。愛
 こそ。金。と。も。ん。の。わ。ら。来。迎。せ。ん。の。物。束
 是。法。照。禪。師。乃。大。會。法。華。讚。し。し
 彼。佛。因。中。立。弘。誓。開。名。念。我。想。来。迎

不簡貪窮將富貴 不簡下智与高才
 不簡多聞持戒 不簡破戒眾根深
 但便迴心多念佛 能令瓦礫變成金
 一。善。導。の。三。縁。の。中。の。親。縁。の。釋
 一。衆。生。が。け。を。れ。し。佛。を。し。を
 一。衆。生。佛。を。し。を。れ。し。佛。を。し。を

かゝる中へいふ河津の養生の業しぬ
一所元書りてきくひたり元書なりてす
念佛の功德すなりと可なりちうけんわ
しる念佛は金カネすくはる事光金チカネ
は尖ヒやくくやいふもありまじしはきわ
積ツクせすいふなり念佛の宴ミツ会ミのたふる時
中ナカのうけつれとむを中ナカ志シすするあり
ゆゑいふはうのりけりんかきりて

佛の経キョウはく事コトをすしていふなり
念佛の事コトはくんとけりりさきんはて
いふか外ソトなりけりてふとむん
とらひをばてわれわさゆゑるわこめ
念佛じりくなりぬはゆなり
いふくひなりくひいふなりそん
養生ヨウジヤウの業ゴウしていふ
一百万遍ヒツマンベンの事コト佛の教キョウはくいふぬち小

阿弥陀經一着まろ一日いちにち着二日ふたにち乃至七日なほしち念佛にふつ
人ひと極樂ごくらく一いちすふといひかゝりては七日しちにち念佛にふつ
すまじきうの七日しちにち経きやうのすまじき百遍ひやくへん
はかりひり人師しし釋しやくしては時ときは百遍ひやくへん
は七日しちにちすまじきうのすまじき百遍ひやくへん人ひと
は八日はちにち九日くくにちすまじきうのすまじき百遍ひやくへん
て百遍ひやくへんすまじきうのすまじき百遍ひやくへん人ひと
は七日しちにちすまじきうのすまじき百遍ひやくへん一いち念ねん十じゆ念ねん
は七日しちにちすまじきうのすまじき百遍ひやくへん一いち念ねん十じゆ念ねん

光くわうとじまはれはひけとの念佛にふつとありはひ
れ一いちは百遍ひやくへん功徳くんとくをかゝる光くわう
の足あし

一いち七しち念ねん全ぜん得とくる事こと佛ぶつのまじき百遍ひやくへんありはひ
しう逆さか修しゆはすまじき光くわうのすまじき百遍ひやくへんありはひ
せはすまじきうのすまじき百遍ひやくへんありはひ
のまじきうのすまじき百遍ひやくへんありはひ
いふまじき極樂ごくらくすまじきうのすまじき百遍ひやくへんありはひ
三さん明めいはひありて

六道ロクダウ四生シウシヤウの衆生シュウジヤウを利益リキヤク一イツ母師長ボシヤウの生シヤウ
所トコロをまろねて心ココロをまろねてマロネテじふさうんをシフサウナン
つとめてふと又マタ當時トキ日ヒをくのみ念佛ニホフをシヤウ
まろく廻向エキヤウ一イツまろねてマロネテ一イツをシヤウ
人のまろ念佛ニホフを廻向エキヤウ一イツの阿耨陀アヌタ
多羅タラ三摩サンマ三昧サンマイ鬼畜キキヤク生シヤウは
まろ一イツ歩フひまろ三慧サンエ道ダウ小コ三サン所ショまろ
まろまろまろまろの向ムカヒまろまろまろまろ

いのりおろりてのり解脱ケダツク了マツルまろまろ
経キヤウ一イツまろ若ニホ在三途サンダウ勤キン苦ク之ノ處トコロ見ミ世セ光クワウ明メイ皆ミナ
得エ休息キヤウシヤク无ム復フク若ニホ惱ノウ壽終シヤウシヤウ之ノ後ノチ皆ミナ蒙マウ解脱ケダツク
一本イツポン願ガンのまろ一イツまろ一イツをシヤウ一イツ換樂カンラクの
孫ソノのりまろねてマロネテ一イツ性シヤウ生シヤウ一イツ定テイ
まろまろまろまろまろまろまろまろまろ
まろまろまろまろまろまろまろまろまろ
まろまろまろまろまろまろまろまろまろ

一ふくして名号の利劍リケン然りて生れシヨウ
 のまのや然り本願の要船ヨウセンを吾海ウカイを
 ばうてうらうら小津コヅけ給ふタマフと
 といひらんれいさ歡喜カンシのやうに
 ばうり謁ケツ作のぢいぢいとばうじじとに
 てうらそが男の毛ケいさういさう川カハはといぢぢ
 といひていぢぢのまにありありりいいらんらんが
 いたくといいとと和われれととりりそそののぢぢと

敬事ケイジこうこう行ぎやうくくいいももぬぬららんんととううみみく
 けつけつののゆゆいい元始ゲンシらりらりこのこの六趣リクシュ
 かりかり一一すすととかかららいいかかららいいららんんととううやや
 ずずとといいららくくららままくく小津コヅりりぢぢいい
 ていいいいややううわわくく一一くくすすややくくけ
 川カハののいい念ネン佛ブツ中チュウてて生シヤウせせままととああらら
 事ジははああとといいままりりとといいふふううををああらら
 事ジををああららんんとといいふふ信シヤウぢぢののいいををああららんんの

急人の心の煩悩漸次とて三つあるは煩
悩いさそやそ何れふんそは漸次とて
何れふんそは也物まてなんと云ふより
やもやそ人一時にまゆ川をこ渡
河にたそい物に白く一やれぬ様
いふはうもまゆ心ふんそは川井よ
いふに妙ふ何れそは法いひて
一月に法をぬては信心と云ふや

せりしとていひ

一日に念佛せしと縁終り善知識わ

るすの修行しとて又やまふ事そ

心そはれは修行しとて中の人いひ

いふはそは修行しとて善導の心そは極樂

ゆいらそは心ゆてたゆくとすそあそ

念佛中けん人のいひる川うん時所跡地

聖衆とて心そは修行しては修行しと

之の目よりをみて、即念佛のり、所縁
終し善知識のりすとも、即けしむら
り也、終つてこそ、又善知識のりうら
て、性すとも、中い事、觀經の下三品のり
にて、下品下生の人、即んこころ、日之縁會
佛のり、即ん、性生ののり、いとも、逆眾のり
臨終し、即ち、善知識のり、即ち、十念具
足して、往生するに、即ち、即ち、日之縁會

他力の教力を、即ち、思惟の、名号のり
即ち、極樂の、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち
識のり、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち
い、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち
今、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち
一、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち
身、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち、即ち

をきりけりて、いふは、おまののかたに、こ
 うして、えんんと、あふふややと、えんん守守のの縁縁
 すくめて、いふんと、あふふ事事と、いふふと、いふふ也。
 是は、人間人間の八苦八苦のうちの、死死と、老老と、病病と、
を願願信信して、性性生生縁縁と、いふふんん行行者者と、いふふ
 若若いののれれと、して、悶悶絶絶し、いふふと、いふふ事事は、
 今今んん時時に、阿阿拏拏施施り、いふふののららううりりて、
 正念正念し、かりて、性性生生と、いふふ一一條條終終ららうう。

すら、いふふのの事事と、いふふののららううりりて、
 允允ままららと、伏伏せせて、いふふ事事に、佛佛と、行行者者と、いふふ
 心心と、いふふ事事に、いふふ事事と、いふふ事事と、三三種種のの愛愛
 心心に、いふふ事事に、いふふ事事に、魔魔縁縁を、いふふ事事に、正
 念正念を、いふふ事事に、いふふ事事に、愛愛心心を、いふふ事事に、善善心心を、
 ののららううりりと、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、阿阿拏拏施施
 け、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、
 いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、
 いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、いふふ事事に、

別れ一終とくく又後世者とわたりまへ
あつけ小のまの正念住して念佛中
えん時よ佛来迎一接下と中あ小
久うよ小阿弥陀經の与諸聖衆現在
其前是人終時心不顛倒即得往生
阿弥陀佛極樂園土といふ人のいほらた
えんとする時阿弥陀がとけ聖光そと
目あま小えり接いえんは阿彌ま

らせてのり小の顛倒せずして極樂
じまふととて心してあはれはうま
やまいせせも善知識わをもと
のを捨りんは海をすま一海とやまひか
ふ時念佛中して條終小阿弥陀の
あ来迎一あつりて三種の愛をのたまふ
小がまれましくせて極樂いしまんといふ
あまふれはとてうらよのぬへん

時^{トキ}所^{トコロ}諸^{シヨ}縁^{エン}と論^{ロン}せず。臨^{リン}終^{シュウ}し往生^{ウシヨウ}なりし

り祢^ネふいりの便^{ベン}直^{チキ}をえらる事^{コト}念佛^{ニホフ}の

一^{ヒト}守^{モリ}と此^{コノ}のきありしん

ふりりしとみ中^{ナカ}の結^{キツ}縁^{エン}ふりりし川の

事^{コト}えりてしつせふれかのりしりり祢^ネ

ひし返^{ヘン}事^{コト}しそひ

一^{ヒト}所作^{ソクサ}は目^メくあそふいりかんらりりし

なりしりん一念^{ニペン}しじまらんかたしそ名の

ひ事^{コト}ゆ事^{コト}しりりりねしし事^{コト}し礼^{レイ}讚^{サン}の

中^{ナカ}の十^{ジュウ}聲^{セイ}一^{ヒト}勢^{セイ}定^{テイ}得^{トク}性^{セイ}生^{セイ}乃至^{ナニシテ}一念^{ニペン}元^{ゲン}有^{ユウ}

疑^ギ心^{シン}と釋^{シヤク}せられてしりり疏^スの文^{モン}し念^ニ

不^フ捨^{シヤク}者^{シャ}是^シ若^{ニク}正^{テイ}定^{テイ}之^ノ業^{ギヤク}とひ十^{ジュウ}聲^{セイ}一^{ヒト}勢^{セイ}

じまると信^{シン}して念^ニしりりり事^{コト}なり

しゆしそその又^{マタ}祢^ネ隨^{ズイ}名^ナ号^{ゴウ}相^{サウ}續^{ジツク}念^ニ

釋^{シヤク}せしはしりれおひし念^ニす念^ニ

し一念^{ニペン}のあひし三^{サン}度^トよりなりしそん

此相續チツツとて川神カハガミを不フ新シン外ガイに
は諸シヨ給キヨひらラ十ジュウ百ハク中チュウは諸シヨ給キヨひら
すとも相續チツツとてぬハたれとも人の心ココロ
付ツきずクずクずク川カハの物モノをシとスな
わハわハくクあハまマこれの中ナカにニおオ新シン若ニヤク見ミ
申マウすスぬハらラの所シヨ作サらハひヒくクわハそ
川カハ神ガミすスたタりリをシ給キヨひヒらラおオ新シン若ニヤク見ミ
そぬハとトあハぬハいイそソとトいイ申マウすスの所シヨ作サらハひヒくクわハそ

るルせセおオりリちチりリてテいイうウわハさハ師シ也ヤ
川カハ神ガミすスたタりリをシ給キヨひヒらラおオ新シン若ニヤク見ミ
らラぬハとトあハぬハいイそソとトいイ申マウすスの所シヨ作サらハひヒくクわハそ
はハこれコレの所シヨにニ相續チツツとトいイふフとトいイふフはハ
もモんンの所シヨ作サらハひヒくクわハそ
申マウすスたタりリをシ給キヨひヒらラおオ新シン若ニヤク見ミ
たタれレはハいイそソとトいイふフとトいイふフはハ
の所シヨ作サらハひヒくクわハそ

真島七箇日のいこのいなる事ゆやの
りんえんおよすの地^チ軀^クは^ハ此^コう^ウけ
あむ^ム過^カ去^クの^ノり^リく^ク少^シの^ノい^イか^カれ^レま^マし^シと^ト
事^{コト}く^クい^イひ^ヒの^ノ文^{モン}臨^{リン}終^{シュウ}は^ハけ^ケい^イを^ヲこ^コえ
い^イふ^フら^ラひ^ヒら^ラん^ンと^トい^イふ^フれ^レる^ル事^{コト}は^ハい^イ
や^ヤま^マい^イる^ルん^ンと^トか^カう^ウり^リお^オぢ^チり^リて^テは^ハま^マあ^アを^ヲ
い^イふ^フぬ^ヌも^モ高^{カウ}時^ジさ^サう^ウぬ^ヌい^イり^リけ^ケい^イ
ぬ^ヌや^ヤま^マい^イの^ノ月^{ツキ}日^ヒ津^ツら^ラり^リ音^ネ痛^{ツク}と^トの

い^イう^ウく^クい^イん^ンい^イゆ^ユら^ラほ^ホれ^レい^イん^ンと^トあ^ア
い^イふ^フ方^{カタ}は^ハい^イふ^フそ^ソ念^{ネン}佛^{ブツ}中^{チュウ}い^イん^ンと^トあ^アは^ハ
り^リて^テい^イ療^{リョウ}治^チは^ハい^イの^ノり^リお^オい^イは^ハ性^{セイ}
生^{セイ}の^ノさ^サう^ウり^リ少^シて^テい^イや^ヤま^マい^イら^ラり^リい^イ療^{リョウ}治^チは^ハ
ゆ^ユら^ラほ^ホい^イん^ンと^トあ^アは^ハい^イ
二^ニの^ノ事^{コト}の^ノい^イを^ヲい^イて^テい^イは^ハい^イ
ら^ラく^クい^イふ^フら^ラは^ハい^イは^ハい^イ

拾遺黒岩詠録卷下

愚見のむすむら集編のむら

志るふせれ中一黒首の御作と云文を

いふゆる史文往生行相抄本願相應抄志起

行作業抄九條の北の政取一進了ら御返す

がのい返す小ニ通ありいはいふの文さい餘の和歌

三心坐の色を以本たりし書し文章と似す義勢とをさうり

初月さうりいさういりふさういゆふ

之人偽書と申し川さうりいれおれを

い進す又六二問答にて六六七張の文あり又臨

終行儀さて六六張の文あり真偽一と

かうりいりうむらうつうむらういりてれを

のうたり又念佛得共義と云文あり上人

の御作と云りいれいれいれいれいれいれ

らぬ人のいりたる文也云乃何うり由事

いれぬ文三三本わり申しくりてを

らぬゆも也むらう二十餘年乃あひむら

もねく^シに^シ賣^イを^シそ^シの^シ孫^シく^シり^シく^シ真^シ備^イを
あ^シら^シく^シあ^シを^シ取^シ捨^イす^シと^シく^シあ^シま
の^シ中^シの^シ後^シ賢^シの^シ所^シを^シす^シと^シく^シあ^シま
又^シの^シ白^シの^シ真^シ書^シわ^シい^シに^シれ^シ捨^シ遺^イ
よ^シ續^シ存^シ一^シん^シす^シと^シく^シあ^シま^シ衆^シ生^シと^シく^シあ^シま
淨^シ土^シ乃^シ正^シ路^シ一^シの^シじ^シの^シ一^シの^シせん^シの^シを^シち^シり
わ^シれ^シり^シく^シく^シ
望^シ西^シ樓^シ沙^シ門^シの^シ惠^シ謹^シ疏^シ
語^シ燈^シ錄^シ瑞^シ夢^シ

嗟^シ哉^シ一^シ貴^シ女^シに^シり^シく^シ後^シ世^シを^シ孫^シ子^シの^シ所^シに^シあ^シら^シぬ^シら
く^シ一^シの^シ往^シ生^シ院^シの^シ善^シ道^シ堂^シ一^シの^シ衆^シ龍^シあり^シて
往^シ生^シと^シの^シり^シり^シの^シ善^シ道^シ堂^シ一^シの^シ衆^シ龍^シあり^シて
尚^シ一^シ卷^シの^シの^シ化^シを^シり^シり^シて^シあ^シれ^シい^シく^シあ^シま
し^シい^シく^シあ^シま^シん^シ也^シん^シみ^シく^シ念^シ佛^シと^シく^シあ^シま
交^シ定^シ往^シ生^シと^シく^シあ^シま^シ一^シの^シの^シけ^シを^シ捨^シて^シあ^シま
あ^シら^シく^シあ^シま^シり^シて^シあ^シる^シ文^シや^シあ^シか^シく^シ法^シを^シ

わらひのわらひすすてなりしはての夢想とて
やうなうらんそそかひひての糸籠ありて
祈請ノコト中ノゆれをら時ト三尊院サンソンイン往生院オウシヤウイン兼カミ糸す
本心ホンシン斎サイとて僧ソウ善導ゼンドウ堂ドウ一月イツゲツりをりけり
ふり申ウケマシとてゆれありけし本心ホンシン斎サイにてい
くををれりひて文フミの語ゴ燈トウ録ロクのすて
ういらんウイラン法ホウ然ゼン上人ジョウジンの所ショ書ショとてわらうる文フミとて
いそりけりよるをそりけしはての糸籠とてい

道ミチをゆらんすりしヲリ仕シ生ナマうとてひてく
ゆせ給タマハたれいやくそりゆんとてわらうる
室ムロのゆゆりし東ツグ帯タイけり上ウラ臈ラウの二ニ人ニヒト雨アメ
方カタにそりせ給タマハたりきりしゆくりりせ給タマハて
いりしゆりしゆれをゆいしゆりしゆりしゆりし
の守護シヤウゴのすめし北キタ野ノ平ヘイ野ノの邊ヘリよりゆりて
是コトとてゆれ給タマハりしゆりしゆりしゆりしゆりし
僧ソウのわら上ウラ臈ラウは北キタ野ノ天神テンシン平ヘイ野ノ大明ダイメイ神カミとて

おんをりて往生はけりなる人のありしを
のりてりてふれりす

元亨元年辛酉のうーいふふの息

徳と報一すそりんそりん

の衆生と往生の正路一すじりん

の先一の和後仰板とひら

一向専修沙門南無阿弥陀佛圓智謹疏

沙門了惠感歎一すす随喜のわりす

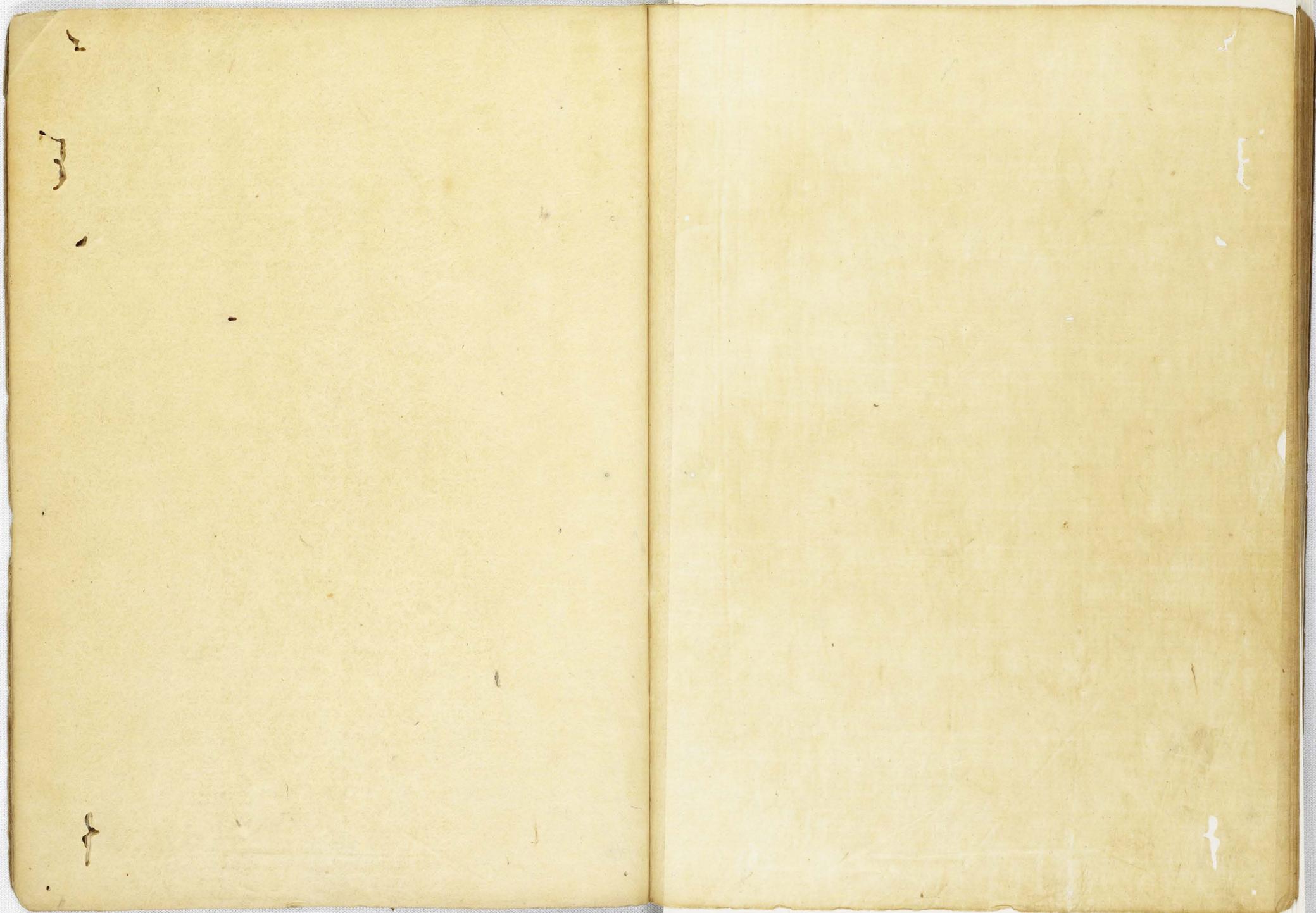
九歳乃老眼とのふて和讃七巻の中

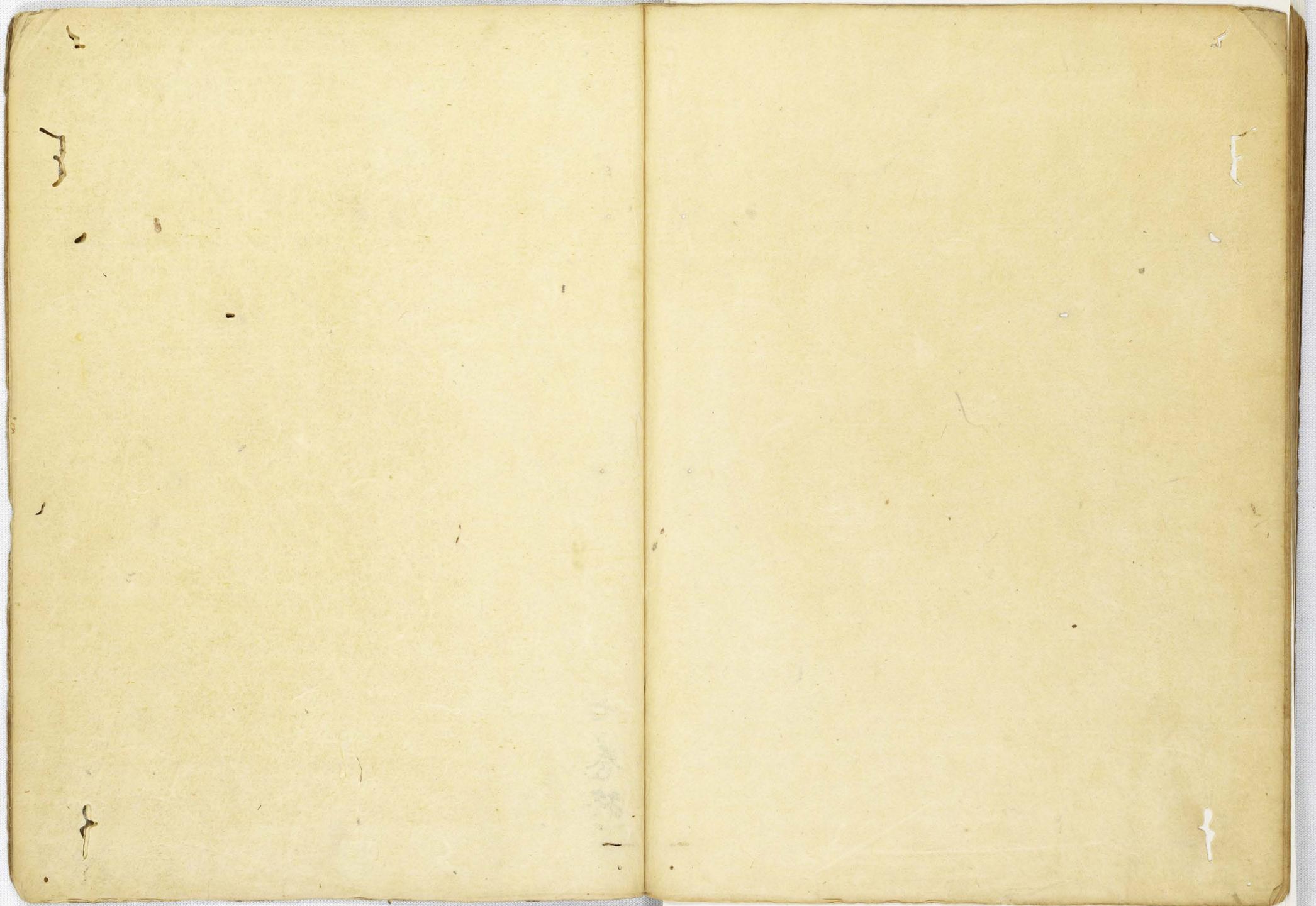
本と書く

元亨元年 辛酉 七月八日終謹疏

法橋幸嚴 末頭







七卷終

六
丁

